

# 輪投げで利用者ら交流

県認知症グループ  
ホーム連絡協議会東三河  
28施設200人が参加

豊川

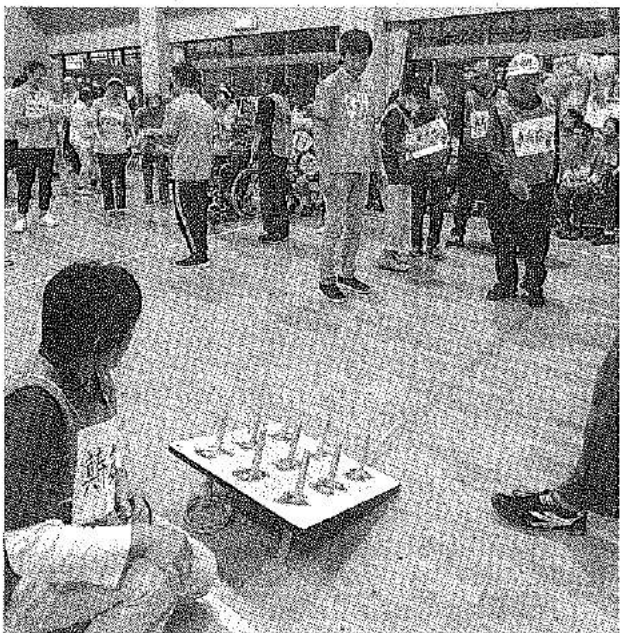
この日は豊橋、豊川、蒲郡、新城から、選手や応援者として入所者と職員が参加。中には100歳を超える選手も。大会

はホーム対抗で、入所者と職員の混合チームがトーナメント戦を行うもので、入所者は職員や仲間らの声援を受けながら、1〜9の数字が書かれた輪投げ台目がけて輪を投げ、点数を確認してはチーム内で一喜一憂していた。試合後は表彰式を行い、1〜3位やブービー賞などが贈られた。

施設によつては練習に力を入れたり、応援グッズやそろいのゼッケン、ユニフォームを用意するなどこの力の入れよう。一年1回皆で集まる貴重な機会。利用者同士の交流はもちろん、職員らも情報交換をするなど横のつながりの強化に役立っている」と担当者らは話していた。  
(田中博子)

愛知県認知症グループホーム連絡協議会東三河ブロック主催の「第6回輪投げ大会」が18日、豊川市平尾町のゆうあいの里ふれあいセンターで開催された。東三河28施設から約200人が参加、輪投げを楽しむと共に施設の職員や利用者らとも交流を深めた。

認知症介護の質の向上  
た。



輪投げを楽しむ参加者―ゆうあいの里ふれあいセンターで

出典 東愛知新聞

2018年10月20日付

朝刊